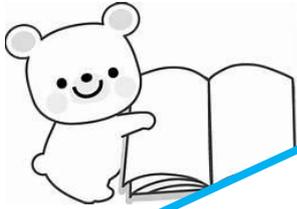


# ほんじつ ～本日のおすすめの本⑮～

かだいとしょ  
課題図書



## 『タヌキのきょうしつ』

やましたはるお さく あかね書房 しゅつぱん (2019ねんしよはん)  
山下明生 作 あかね書房 出版(2019年初版)

\*この本は 9類の書棚にあります。(貸出可能)



ひろしま市にはじめてできた小学校は、ふるいお寺をかりた小さな学校でした。



時は、明治6年のことでした。校庭には、クロガネモチという大きな木がありました。いつのまにか根本には、ほらあなができて、タヌキの一家がすみついていました。タヌキのお父さんは、学校にかよってくるせいとたちをのぞきながら、「どうやらこれから世の中は、だれでもかれでもベンキョウセンといけんようじゃな」と思います。そこで、タヌキのお父さんは、人間にばけて一年生の教室にこっそりこんで、授業をうけはじめました。



勉強をすることができて、タヌキのお父さんは大喜び。夜中に子どもたちに勉強を教えはじめます。場所はもちろん小学校の教室です。ホタルを集めて、あかりのかわりにしました。それをみた人間たちはびっくり。



時は流れ、昭和時代。ひろしま市は戦争によって原子爆弾を落とされます。校庭の真ん中にあつたクロガネモチの木は、やけただれてしまいましたが、なんとか命をつないでいました。街はどんどん発展していきました。そんな中、「たぬきの煮卵」というおでんやさんに、まいにち「たぬきに た たまごをください」とやってくるかわいいお客さんたちがいました。さてさて…

ねんせいだいしよ  
1・2年生対象

だじゃれも入っていて楽しいおはなしではありますが、その根底に「戦争」という悲劇が大きく横たわっています。平和についてもかんがえてみましょう。